

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービスきとん（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 1 月 13 日		～ 令和 8 年 1 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和 8 年 1 月 13 日		～ 令和 8 年 1 月 15 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 2 月 25 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが楽しい、と思って通ってきてくださる。保護者の方からの支援に対する満足度が高い。	許すばかりのかかわりでなく、園や集団に戻った時に本人が困らないように療育プログラムを組んだり、職員間の情報交換を密にして、個に応じたかかわりができるよう努めている。子どもたちと一緒に職員が楽しむようなかかわりをしている。園やご家庭との連絡を密にし、本人の気持ちや保	より子どもたちが達成感を感じるプログラムを組んでいく。今の職員間の情報交換に加え、子どもたちの所属先との情報交換もより頻回に行っていきたい。
2	行事などに楽しさや効果を感じてくださる保護者が多い。	3か月に1回ほど家族で参加できる行事を行事担当者が考え、企画している。お子さんが複数いらっしゃるご家庭などは職員がお子さんの支援をできるので、この機会を利用して経験の幅を広げてもらえるよう心がけている。	保護者の方のお仕事の都合も考え、子どもたちだけを連れていく企画も増やしていきたい。また、外に行かなくても事業所内で行える行事を考えていきたい。
3	活動プログラムが固定化しないように工夫しているが、それを感じてくださっている方が多い。	活動には必ず目的を持ち、その都度、声掛け方法や教材を工夫している。また、終了後には必ず振り返りシートを記入し、次の活動に活かすようにしている。	活動のバリエーションをさらに増やし、子どもたちは遊んでいるつもりでも療育的効果を狙えるものを工夫して行く。

	事業所の弱み（※）だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こども園や他の施設のこどものかかわりがまだ不十分。	同法人のこども園の発表会の練習などは見に行っているが、子ども同士の交流はない。利用児の利用時間が園の活動時間とかぶっており、交流するのが難しい	園もそうだが、他児童支援施設との交流を提案してみるのもよいかもしれない
2	事故防止や避難訓練などの周知が不足している 研修をしていることが伝わっていない	毎月避難訓練を実施したり事故防止の研修をしているにも関わらず、それを保護者へアピールすることをしていない。 マニュアルも保護者の歓談用ソファールにはおいているが、保護者がそこを訪れることがない。	ホームページなどに避難訓練のスケジュールのお知らせや、研修をした内容などを随時知らせるようにする。 保護者参加型の訓練や研修を企画する。 契約時にマニュアルについても説明する。
3	家族支援のプログラムを明確に打ち出していない	個別の相談には対応しているので、頻繁にご利用していただくことはあるが、多くの人がそのことを知らない。	ホームページやインスタで研修内容を伝えたり、Q&Aのようなコーナーを作って気軽に閲覧できるように工夫する。